

## 背景

医科外来レセプトによる疾患切り口に基づくレセプトデータ解析結果によれば、生活習慣病患者が多く、高血圧症、高脂血症の割合が高い。一方で、調剤レセプトによる服用薬剤の薬効群切り口で見ると、血圧降下剤、高脂血症用剤、抗アレルギー用薬、眼科用剤、消化性潰瘍用剤、耳鼻科用剤などの使用率が高い。高血圧、高脂血症、高血糖といったメタボ系の予防事業としては特定保健指導、重症化予防事業を行っているところではあるが、服薬情報も組み込んだ情報提供及び個別介入は行っていないのが現状である。

## 事業実施の目的

上記の背景を踏まえ、次の3点を事業目的とする。

- A 多剤・重複服薬該当者に多剤・重複服薬の危険性を知らしめる適正服薬指導を行うこと
- B 特に、Aの中でも高血圧、高脂血、高血糖などのメタボ系傷病の治療者の多剤・重複服薬該当者に対する啓蒙と行動変容を促す活動に力点を置いた事業を構築することで、特定保健指導や重症化予防事業とコラボしたメタボ関係傷病の改善に資すること。
- C 事業実施を資材配布と薬剤師による個別介入(対面・WEB・電話)の二段階に分ける。まず、資材配布を行い、対象者の行動変容(多剤の減少・重複の解消)を評価し、重複の解消が見られない者に個別介入を行うこととする。但し、多剤については重点を置くメタボ系の傷病(高血圧症・高脂血症・高血糖症)に限り資材配布の評価を行うことなしに、個別介入を行う。

## 事業構造と内容

### 【ポピュレーションアプローチ】

- ◆各事業所加入者を対象とした、「服薬適正化セミナー」の実施。

### 【ハイリスクアプローチ】

#### 1、多剤服薬通知、服薬指導

対象:3か月間のレセプト情報から、投与日数8日以上、2医療機関以上を受診かつ6剤以上(透析、がん患者は除外)。

- ◆服薬通知文を発送しかかりつけ医、かかりつけ薬剤師への相談を促す。

#### 2、生活習慣病罹患患者への改善指導

対象:上記1の対象者のうち50歳以上、10剤以上かつ生活習慣病罹患患者(高血圧、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症)。

- ◆生活習慣の改善および受診行動服薬適正化を面談(WEB)による啓発を実施する。

#### 3、重複(禁忌)服薬指導

対象:1か月もしくは3か月連続で、同一成分もしくは同薬効成分(問題ある症例)の薬剤を2施設以上の医療機関から定期的に処方されていると推定される者。

- ◆医科外来・調剤レセプトを薬剤師の目視で分析、指導対象者を抽出し、啓蒙資材の配布を行う。

- ◆その後、啓蒙資材を配布した重複投薬者には、3か月間のレセプトを追跡調査し、行動変容が見られない者に対し、薬剤師による対面・電話・WEBによる個別介入指導を行う。

# ポピュレーションアプローチ

## 「服薬適正化セミナー」の実施

- ・お薬との上手な付き合い方、栄養と健康(サプリメント、乳幼児への薬の飲ませ方、高齢者特有の課題など)
- ・お薬手帳の持参やかかりつけ薬剤師の活用、健康セミナーと連動した内容の普及
- ・啓発による「**行動変容促進**」など



# ハイリスクアプローチ



## 【掲載項目】

- ① 『**重複**』(同一成分)
- ② 薬薬『**薬剤一覧**』(=多剤(ポリファーマシー))



薬剤名	成分	剤形	メーカー	備考
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	
アセトフェン	アセトフェン	錠剤	大塚製薬	

薬剤師による個別指導プログラムを案内。

主に**重複・禁忌**を通知。  
薬剤師のコメント入りでどのような**リスク**があるのを通知する。

# 事業のポイント

多剤対象者への通知、重複対象者への通知を行い、**行動変容をレセプトにて3か月間追跡し、行動変容が見られない者に個別介入を行う。**  
ターゲット抽出時、**慢性的に多剤に陥りやすい生活習慣病患者に力点**を置いて啓発を実施することで、将来的な多剤・重複の増加を抑える。  
通知介入前後のそれぞれ3か月のレセプト分析によりアウトカムを評価する。